

第1回 噴水姿態の基本形

水景施設の演出形態は大きく分類すると、噴水・流れ・滝・池等に分けることができます。このうち、噴水はさまざまなノズルを使って下から上に噴き上げるものが一般的です。これらのものが米国のホワイトハウス前の樹氷形噴水のように単独で用いられることもあります。ノズルの種類、本数が組

み合わさることで演出効果が高まるため、その空間にどういふものを設置するかというコンセプトとデザインを踏まえたうえで、ノズルを選定することが重要になってきます。このほかにも、さまざまな仕掛けや装置を施した特殊噴水があります。ここでは一般的なものを紹介します。



直上形

直上に上げた噴水で、エアージェットノズル、シャープノズル、シリンダーノズルなどのノズルが適用される。高さは数十センチのものから百メートル以上の大噴水まである(写真はジェットノズルを5本並べたもの)。



噴霧形

水を流体としてではなく、霧や蒸気として表現したもの。噴霧の粒子が10〜20ミクロン程度で衣服や肌が湿る心配のないものもある。写真は粒子の粗いもの。



マッシュルーム形

水面から突き出たノズルから、水をお椀を伏せた形で膜状にして噴出する。マッシュルームのような美しいフォルムが作り出される。風に弱く、屋内に適している。



キャンドル形

右のキャンドル形はノズルが水面下に没しているが、本写真はノズル先端が水面上に首を出したものの。



キャンドル形(樹氷形)

「樹氷」をイメージした噴水。流量や圧力を増したものでは高さ十数メートルのものもある。



平形

その名のとおりに、ノズルを平にして噴射したもの。アーチ状によく使われる。



扇形

その名のとおりに、扇の形をした噴水。



フラワー形

アサガオやユリの花のように深溝のある姿をした噴水。

噴水姿態の基本形はこの他に、円柱形・冠形・ケージ形・ピーコック形・波形・花火形などがあります。その詳細については、日本水景協会発行の「水景技術標準(案)解説」で解説していますので、ご希望の方は日本水景協会事務局までお問い合わせください。次回はさまざまな滝の姿態について紹介する予定です。

写真撮影/堀 隆弘